

研究報告書

学校名 久米島町立美崎小学校

I 研究主題

島に誇りを持ち、未来に向かって創造的に働きかける力を身に付けた児童の育成
～生活科・総合的な学習の時間における、地域教育資源を活用した環境教育等を通して～

II 主題設定の理由

環境的視点、経済的視点、社会・文化的視点から、より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらすことのできる開発や発展を目指した ESD 教育が 2005 年に国連で採択され、世界の共通目標のもと各国で展開されてきた。さらに、2015 年には、国連サミットにおいて持続可能な 17 の開発目標 (SDGs) が掲げられ明確な取組として具体的に示された。学校教育においては、学習指導要領の前文において、「持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」が明記される等、学校教育全体を通して急速に変化する社会へ対応できる資質能力を身に付けた児童の育成が示された。変化の激しい現代社会における地球規模の諸課題に対し、自分で考え、協働し、行動する力を身に付け、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育の展開が一層求められている。

総合的な学習においては、持続可能な社会の実現に関わることとして「環境」等の現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題として例示され、現代社会に生きる全ての人々が自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれており、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことの重要性について触れている。

本地域には、久米島の伝統工芸品として国の重要文化財として指定された「久米島紬」や、「海洋深層水研究所」をはじめ、「海洋温度差発電施設」「牡蠣養殖」「海ぶどう」等の海洋深層水を利活用した関連産業が隣接し、再生可能エネルギーや深層水の特性を活かす研究など持続可能な社会を創る視点から取組が行われている。一方で、赤土流出による海洋汚染、漂着ゴミ、珊瑚の白化等も深刻な状況にあり、地域や島を取り巻く環境には大きな課題もある。

本校においては、これまで学年段階における各教科等の特質において地域の自然、文化、産業等について学習してきた。自然の豊かさ、伝統工芸等にかかる工程、職人の願い、地域産業の工夫等について理解を深めてきた。そこで、本研究では、これまでの学習活動を踏まえ、児童一人一人が環境と自らの生活との関わりを考え、未来を見通し、積極的に働きかける実践力を身に付ける必要があると考え、生活科、総合的な学習の時間を中心に「豊かな自然や文化、未来を見据えた産業を有する島」について、体験的・教科横断的な学習を展開していくこととした。各教科の特質を踏まえるとともに探究的な学習活動を発展的に繰り返すことを重視し、環境を軸とした学年間のテーマの関連性(縦の系統)、学年における年間をとおした単元の関連や発展性(横の系統)を持たせること、学習課程において ESD 教育で培う 7 つの力(国立教育政策研究所)を明確にすること、教科等横断的な教育課程編成すること等の視点から学習活動を進めていく。

このような視点のもとに、地域環境をテーマとした学習活動を構成し、地域教育資源を積極的に活用した体験的な学習活動を発展的に展開することにより、自らの生活、未来の予測、環境保全等にかかる実践力を身に付け、島のよさや課題に目を向け、未来を見通し創造的に関わる力が育つと考え、研究テーマを「島に誇りを持ち、未来に向かって創造的に働きかける力を身に付けた児童の育成」とし、サブテーマを「生活科・総合的な学習の時間における、地域教育資源を活用した環境教育等を通して」と設定した。

Ⅲ 研究仮説

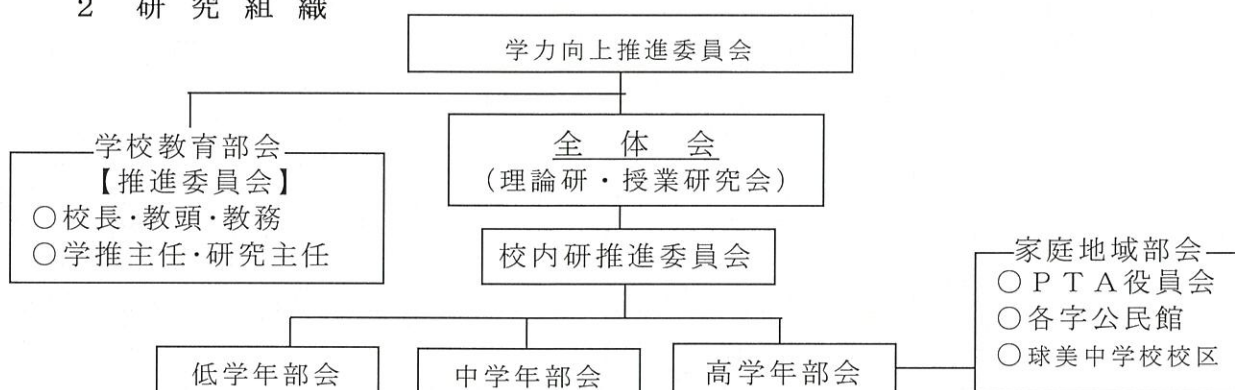
生活科・総合的な学習の時間の指導において、地域教育資源を活用した、体験的・横断的な環境教育等を系統的に工夫実践することで、将来を見通し、生活と環境の視点から主体的に働きかけようとする実践力を身に付けた児童が育つであろう。

Ⅳ 研究実践の主な内容

1 研究方針

- (1) 本校の教育目標の具現化を目指し、児童の実態を踏まえて研究を推進する。
- (2) 研究主題や研究内容について、全職員の共通理解、連携のもと推進する。
- (3) 教材研究、授業研究会は全担任が参加し、研究を深める。
- (4) 全体研究会を行い、指導主事を招聘する。(全3回)
- (5) 校内研究と学力向上推進は常に関連させながら、連携を深めていく。

2 研究組織



3 研究内容

- (1) ポートフォリオ（環境パスポート）の作成と活用
- (2) ESD教育の7つの視点に立った授業作りの工夫
- (3) 学習評価

4 本研究にご協力頂いた方々（地域教育資源を含む）

関連学年	協力者	所属
学校全体 (全児童)	阿部昭彦 矢田部建佑	一般社団法人SDGs未来ラボ 公益社団法人青年海外協力協会
低学年	佐藤文保, 直美 新垣希, 宇江原智子 新垣清昂	久米島ホテル館 ふくぎのくくる 地域のおじいさん
中学年	松本徹, 村吉政太 鳥谷部愛	久米島紬の里ユイマール館 久米島町学びやコーディネーター
高学年	伊関亜里砂 岡村盡 西原隆 松崎章平, 伊藝元	久米島町漁業協同組合 一般社団法人GOSEA NPO法人おきなわグリーンネットワーク 沖縄美ら海水族館
教職員 (授業研・理論研)	島袋里映 大嶺成 阿部昭彦	沖縄県教育庁生涯学習振興課 久米島町教育委員会 一般社団法人SDGs未来ラボ

5 研究実践例

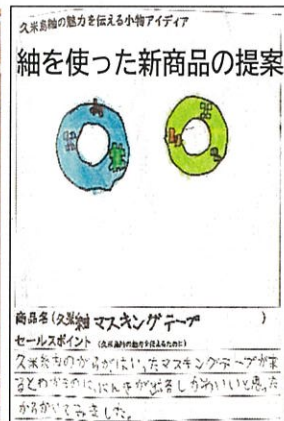
(1) 各学年の取り組み

①低学年 生活科「生き物と友だち」 **中心目標 15**



②中学年 総合学習「久米島博士になろう～久米島紬広め隊としてできること～」

中心目標 11 関連目標 8・12



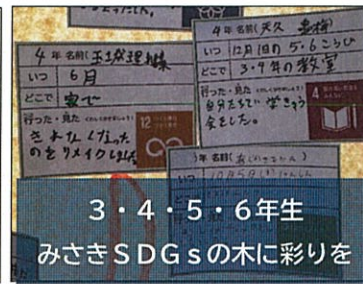
③高学年 総合学習「海の豊かさを守ろう～私たちにできること～」

中心目標 14

関連目標 11・15・17



(2) 教室掲示, 校内掲示の充実



美崎小学校 先生たちのお勉強

ESD (Education for Sustainable Development)

— 持続可能な開発のための教育 —

各教科および「生活科」、「総合的な学習の時間」の学習活動を進める中で、
 持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだし、
 それらを解決するために必要な能力や態度を身に付ける。

持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだすための6つの視点

I 多様性
いろいろありますね。

II 相互性
関わっていますね。

III 有限性
いつかはなくなりますね。

IV 公平性
一人ひとりが大切です。

V 連携性
力を合わせるといいですね。

VI 責任性
続けて最後までできますか。

先生たちも みんなと一緒に お勉強しているんだね!

みさきっ子に身に付けたい7つの力

- ①批判的に考える力 「これって正しいのかな。」
- ②未来像を予測して計画を立てる力 「これからどうしたらいいのだろう。」
- ③多面的、総合的に考える力 「このやり方はどうかな。」
- ④コミュニケーションを行う力 「〇〇さんはどう思っているのかな。」
- ⑤他者と協力する態度 「ひとりではできないから一緒にやってみよう。」
- ⑥つながりを尊重する力 「わたしたちってどうやって生きているのかな。」
- ⑦進んで参加する態度 「わたしからやってみるね。」

(3) SDGs 集会の実施 (全7回)

SDGs 17の目標を学んだり、楽しみながら達成したりすることを目的として、全学年合同(活動は縦割り班)で行った。

- ・第1回「SDGs 集会で学ぼう～SDGs ビンゴ～」

めあて: 私たちにできるSDGsの取り組みは何だろう。

- ・第2～5回「SDGs かるたを作ろう」

めあて: 私たちにできるSDGsの取り組みをかるたで表現しよう。

- ・第6・7回「SDGs チャレンジ」

めあて: 自分たちの力でSDGsの計画を立て、実行しよう。

(4) 学習発表会で表現

各学年の取り組みを演目や掲示物を通して、保護者や地域の方々へ発信。



V 研究実践の成果と課題

1 成果

- (1) 教職員が地域教育資源を積極的に活用することや、児童が地域教育資源を使って学習すること自体がSDGs 17の目標の何らかの達成につながっていることが分かった。
- (2) 児童は各学年の取り組みやSDGs集会を通して、SDGs 17の目標が言えるようになったり、中・高学年においては学習や生活とつなげて考えたりする姿が見られるようになった。

2 課題

- (1) 教科横断的な視点を持って取り組むことで、さらなる成果が期待できる。
- (2) 評価に関する研究を深めきれていない。特にB評価の設定。

3 その他

環境パスポートではなく、本校児童の実態にあったものを作成した。(低学年「ぼくの、わたしのSDGs」、中・高学年「みさきSDGsの木に彩りを」)
児童は意欲的に取り組んでいたが、継続的に取り組ませるための手立てが不足していた。